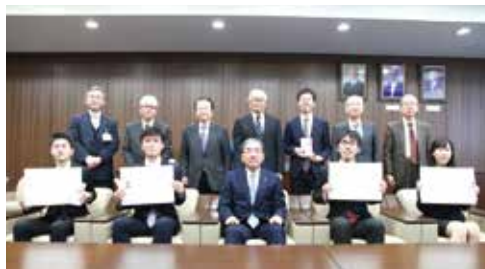


東広島市在住外国人は6000人余りと多い。その中でもムスリム（イスラーム教徒）の人たちは厚い信仰心を持っていてるように思われ、接し方に戸惑われる方も多いのではないだろうか。



安藤 忠男  
(土壌肥科学・環境科学)

## 地域課題研究懸賞論文③



地域課題研究懸賞論文受賞者と市長・市職員・審査員たち

# ムスリム児童への教育支援を研究

広島大学大学院国際協力研究科の松井理恵さんのムスリム児童の教育支援に関する優秀賞受賞論文は、私

たちのムスリムへの接し方も大変参考になる。

松井さんは、アフリカから東南アジアに至る種々の国から来た24人のムスリム児童が通う市内の小学校に一年間ボランティアとして働きながら児童の様子などを観察し、日本語教育担当教員や保護者と面談して、必要な教育支援の在り方を研究したのだ。

この小学校では、ムスリム児童に対し給食、断食月、礼拝、服装に配慮しており、他校の模範になる。

一方、児童の保護者への面接調査の結果では、同じムスリムでも、厳格な信仰実践が必要と考える保護者から、日本の学校教育そのものがムスリムのあるべき姿に通じていると考えている保護者もあり、多様である。児童の家庭の考え方を尊重した対応が必要であり、大学・企業・地域社会の協力が必要との結論だ。

学生たちが地域社会から課題を探し出し、自分たちの熱意と努力、時には先端的な手法を駆使してその解

決策を考える地域課題研究懸賞論文事業は、学生や地域社会ばかりでなく、彼らを指導する大学にとっても貴重な存在になるだろう。

広大マスターズは、この事業の企画段階から参画し、論文審査に協力してきた。全論文の査読と論文所見の作成は容易ではないが、この事業の発展のために今後とも力を尽くしたい。

広島大学マスターズは、広島大学を退職した教職員で組織しています。市民を対象にした講座も行っています。  
【問い合わせ】  
kazuwp@hiroshima-u.ac.jp(渡部)



過去の記事